



# Utility of ECG-gated MDCT to differentiate patients with ARVC/D from patients with ventricular tachyarrhythmias.

著者名	中島 崇智
発行年	2014-10-17
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10470/30824">http://hdl.handle.net/10470/30824</a>

## 主論文の要旨

Utility of ECG-gated MDCT to differentiate patients with ARVC/D from patients with ventricular tachyarrhythmias.

「頻脈性心室不整脈患者から不整脈源性右室異形成症患者を鑑別する際の心電図同期多列 X 線コンピュータ断層画像の有用性について」

東京女子医科大学循環器内科学教室

(主任：萩原誠久教授)

中島 崇智

Journal of Cardiovascular Computed Tomography. 第 7 巻 第 4 号  
223 頁～233 頁 (2013 年 8 月 28 日発行) に掲載

不整脈源性右室異形成症 (ARVC/D) の診断において、心電図同期多列 X 線コンピュータ断層 (MDCT) 画像を用いた診断能についての報告はなされていない。本研究では ARVC/D 診断において空間分解能や脂肪組織診断能に優れた MDCT 画像の有用性を検討することを目的として、ARVC/D 患者および頻脈性心室不整脈から ARVC/D が疑われた連続 77 症例 (平均年齢 43.1 歳、男性 48 症例) を対象として施行した単純+造影での MDCT 画像を解析した。ARVC/D 患者における特徴的な MDCT 画像の所見である①右室への脂肪浸潤、②右室自由壁の局所心室瘤 (bulging) および③右室の拡大の三所見について包括的 CT 所見スコアリングシステム (CT スコア) を提唱し、その有用性を 2010 年に改定された診断基準 (modified Task Force criteria 2010 ; m-TF2010) と比較・検証した。現行の ARVC/D の診断基準である m-TF2010 を基準として診断したところ、77 症例中 27 症例が ARVC/D 群、50 症例が Non-ARVC/D 群と診断された。①～③の MDCT 画像所見は、ARVC/D 群で有意に多く観察されたが、各々の CT 所見は non-ARVC/D 群でも観察される症例があり、単一の画像所見のみで ARVC/D を診断することは疑陽性を生じると考えられた。そこで各 CT 画像所見および CT スコアについて決定樹解析をしたところ、CT スコア 4 点以上を ARVC/D とする場合が最も診断能が高く、感度 77.8%、特異度 96.0%、陽性的中率 91.3%、陰性的中率 88.9%、正確度 89.6%であった。(676 文字)